

インターバンクの声（2016年9月30日）

アジア市場の終盤からロンドン市場に渡る時間には、さすがに円売り・ドル買い一辺倒だった円相場にも若干の修正が入ったが、ニューヨーク市場の朝に発表された米GDP(国内総生産)確報値の上方修正を受けて101円80銭台までドル買いが進んだ。ただ昨日のニューヨーク市場は、石油輸出国機構(OPEC)の非公式会合で減産が合意されて原油相場が急伸、株式も上昇していた前日とは様子が違った。昼頃まで上昇が継続していた原油相場にも調整が入り、市場を賑わせているドイツ銀行の経営不安説に新たな不安材料が加わったことが伝わると、金融株を中心に売りが集中、ダウが一時250ドル近く値下がりした。前日リスク回避姿勢が和らいだのも束の間、再び安全通貨の円を買う動きが強まった。ニューヨーク市場の後半、一時は100円80銭台まで円が買われ、ドルの高値から1円ほど円高が進んだ。米連邦準備制度理事会(FRB)が12月に利上げする可能性が残されていなければ、さらに円買いが進んでいたかも知れない。いま暫くは100円から102円をコアにした相場が続きそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。